

黒  
い  
ら  
く  
だ

ピ  
ン  
ク  
地  
底  
人  
3  
号

【登場人物】

坂本透	大学生	23歳
坂本京子	透の母	50歳
坂本建人	透の父	50歳
武田義雄	透の後輩	22歳
筒井昌美	京子の友人	47歳
熊谷りさ	女子大生	22歳

☆

京都市伏見区向島にある、6階建ての団地。

601号室（下手）と602号室（上手）の共同ベランダ。ベランダは赤錆びた手すりに囲まれている。下手には灰皿と煙草の置かれたテーブルと二脚の椅子。足元には空になった一斗缶のゴミ箱と猫の餌用プレート。クーラーの室外機、植木鉢、物干し竿などがある。

季節は夏。

両室の窓は網戸になっているが、明かりがついていないため、

中はよく見えない。

☆

マタイの福音書第19章 16～30節

“富んでいる者が神の国にはいるよりは  
らくだが針の穴を通る方がもっとやさしい”

らくだのこぶにはね 夢がつまってるんだって…

☆

激しい雨の音。

坂本建人（透の父）が坂本京子（透の母）の髪を掴み、  
身体を手すりに押さえつけている。

建人 お前、死ぬんか？ おい!! 死ぬんか？ おお？  
落ちてみるか？ ここから落ちてみるか？

京子は弾かれるようにベランダに転がる。  
トートバッグの中から食材が散らばる。

建人は発泡酒を拾う。

建人は再び、発泡酒を飲む。

建人 なんて淡麗やねん。発泡酒はあかんって何回言うたらわかん。あ？全然ちゃうんよ発泡酒は。ビールとは

言えへんのよ。盗むんやったらスードラ盗んでんか？

と椅子に座り、発泡酒を飲む。

建人 まっず……ほんまにこんなしよーもないもん作ったやつは死んだ方がマシやな。飲んでられるか。

京子 ……

建人 何回、警察に頭下げた思う？ 何回、店長に頭下げた思う？

京子 ……

建人 あの店長な、ガキの頃、学校一緒やってん。うだつのあがらんやつでな。よう虐めたわ、あいつのこと。そんな奴に俺は頭下げなあかんかったやぞ。それがどういうことか、お前、わかってんのけ？あの腐れちんぼ、ニヤニヤしとったなあ。「出来たらこの場で済ませたいんですけど」ってなあ。「こういった場合、絶対に警察を呼ばなあかんの」ってなあ。ほんまに殺そうかと思っただわ。てか殺すべきやった。正直後悔してねん。

建人 だからまずいねん!!

京子 ……あなたのせいちゃうんか。

建人 あ？

京子 あんたが働かへんようになってうちは……

建人 働かへんちゃうやん。あいつらが俺を働かさへんよ

うにしたんや。

京子 いつまでそうやっていじけてるん。朝から晩まで

お酒飲んで……

建人 お前に俺の何がわかんねん!! 殺すぞ!!

建人は602から視線を感じる（客席からは暗くて見えない）。

そこには子供の頃の透がいる。

建人 何見てんねんクソガキ……何見てんねん!!

建人は602の方へ。

京子は立ち上がり、建人の前へ。

京子 あの子には手出さんといて!! まだ子供なんよ!!

建人 なんやその目は!!  
京子 お願ひ!! やめて!!  
建人 離さんかい!!

建人は京子に馬乗りになり、京子の顔を殴り続ける。  
とにかく執拗に殴り続ける。  
比例するように雨の勢いが増していく。

暗闇。

☆

20年後。

セミの鳴き声。

ベランダに武田義雄と筒井昌美がいる。

昌美はアイスを食べている。

あまりの暑さに義雄は汗を拭う。

昌美 困るんよ。

義雄 ……すみません。

昌美 どこ行つてたん。

義雄 ……パチンコ。

一日一件は必ずつて言うてましたよ。

昌美 ふかしてんねん。何でそんな人に新人任せるかな、

信じられへん。

義雄 人手、足りてないんでしょ。あの人、名前なんでし

たつけ、次長の……

昌美 神田さん。

義雄 そうそう。神田さんが面接の時に、いつも筒井さん

にはお世話になってるつて。

昌美 そんなこと言うてたん。

義雄 はい。

昌美 そんなん言うなら時給あげてくれたらええのに。

義雄 いくらもらつてるんすか。

義雄は煙草を吸おうとする。

昌美は煙草を奪つて、

昌美 あんたな、反省してないやろ。

義雄 してますよー。

昌美 軽い、軽いわ。あんたの言葉は信じられへんぐらい

軽いねん、ふわふわ。何を言つても全く信用で出来ひん。

義雄 全然関係ない話してもいいですか？勤務地なんです

けど、スーパーじゃないとこがいいつす。スーパー行つ

昌美 バレへんと思つたん。

義雄 はい。

昌美 バレるよ。

義雄 はい。

昌美 わかつてんなら何ですんの。

義雄 いや、バレへんと思つたんで。

昌美 あんたが思つている以上に万引きGメンつてのは店  
の人に見られてんのよ。2時間も3時間も店からいつの  
間にかおらへんようになったら、誰だつておかしい思うわ。

義雄 だつて全然わかんないすもん。万引きなんて全然お  
れへんし。

昌美 そりゃああんたがちゃんと見てないからちゃうん  
か。

義雄 見てますよー。めっちゃ見てますよー。

昌美 それは見てるようで見えてないんよ。

義雄 何すかそれ。

昌美 あんた、研修は誰についてももらったん。

義雄 えーつと、城田さん。

昌美 城田さん？もう全然あかん人やん。

義雄 そうなんすか。

昌美 めちゃくちゃ捕捉率悪い。

義雄 でも「どんぐらい捕まえてるんすか」つて聞いたら

てもじいちゃんばあちゃんばかりやし、もつと若い子  
がいてるこがいいんすけど。

昌美 あんな、まだ出勤10日目のあんたに勤務地を選べる

権利はないねん。わかつてる？

義雄 いや僕が言いたいのはね、とりあえずスーパーマー

ケットじゃないとこがいいんすよ。

昌美 ……

義雄 え？怒つてるんすか？

昌美 ……怒つてるよ。

義雄 え？何ですか？

昌美 わからへんの。

義雄 はい。

昌美 もういいわ。

義雄 あ、いいすんか。

昌美 よくないよ。

義雄 どつちすか。

昌美 ……薄々感づいてたけど、あんたアホやろ。

義雄 ……へへ。

昌美 もう。

義雄 いいじゃないすか。紹介料もらつてるんでしょ。

次長さんに聞きました。紹介人数ナンバーワンやつて。

この団地だけじゃなくて、他のとこでもめちゃくちゃ張

り紙貼ってるやないすか。この前、ツレんとこ行ったら、そのエレベーターにも貼ってあって。何すかその行動力。やばくないすか。

昌美 あんたにはわからんかもしれんけどね。生きていくのにはお金がいんのよ。特にうちみたいになんの取り柄もない人には。

義雄 取り柄あるじゃないすか。めちゃくちゃ捕捉するんですよ。

昌美 あんたよりはね。

義雄 へへ。

昌美 ……ご飯。食べてく？

義雄 いいんすか。

すると602からスーツ姿の坂本透が入ってくる。

義雄 ちす。

昌美 今日は早いね。どう就活？

透 ぼちぼちです。引越しの準備。終わりそうすか？

昌美 もうほとんどダンボール詰めたし。

透 また言うてください。手伝うんで。おい。お前もやぞ。任せてください。

透 てかなんでこいついるんすか？

昌美 ……うん。

義雄 透さん。でもね、俺は俺なりに頑張ったんすよ。

透 あ？

義雄 ただね、全然いないんすわ。もつと俺、バシバシ捕まえられると思ってたのに。

昌美 この子、仕事サボってパチンコに。

透 あー。

義雄 すいません。

透 そろそろかなとは思ってたけど。

義雄 でも俺、この仕事嫌いじゃないす。

昌美 あんた、ほとんどパチンコ屋におっただけやろ。

義雄 パチンコが仕事です。

透 こいつ、クビすか。

昌美 わからんけど、ただびっくりするぐらい人が足りてないから、たぶん大丈夫だとは思う。

透 すいません。こいつのこと、よろしくお願いします。

死ねほどダメなやつなんで。

義雄 よろしくお願いします。

昌美は601へ去る。

透 義雄。あんまりおばちゃんに迷惑かけんなよ。

義雄 いいじゃないすか迷惑。

透 あ？

義雄 だっておばちゃん、嬉しそうやし。

透 ……やっぱりお前、向いてないよ。

義雄 向いてます。

透 やめへん？

義雄 嫌です。俺は透さんみたいになりたいんす。

透 ただのバイトやで俺の場合。週一よ。

義雄 いや懂れてるんで。

透 何をそんなに懂れてるんか俺にはさっぱりやけど、保安のバイトやったところで俺にはなれへんことはわかるやんな？

義雄 わかんないす。

透 前にも言うたけど心配してんねん。万引き犯って逃げるためにはなんでもするねん。そうなた時、お前がまたブチ切れて問題起こすんがき、怖いんよ。大丈夫です。ちゃんと抑えられますから。任せてください。

透 ……

義雄 面接、どうやったんすか。

透 ……うん。

義雄 マジすか。もう決定じゃないすか!!

透 まだ最終が残ってるし。

義雄 東京すか…

坂本 大体決まったとしても行くかわからんし。

義雄 マジすか…東京すか。

義雄はベランダの手すりに両手を乗せて、いきなり叫ぶ。

義雄 東京!! 狂った街!!

透 何をしてんねん。

義雄 テンションマックス!!

透 だからまだわからんて。

義雄 てか何でそんなに頭いいんすか。

透 頭関係ないよ。あ、まあないこともないけど、逆に聞くわ。お前は何でそんな頭悪いん？

義雄 ちよつとお。

透 それなりに勉強してるだけ。

義雄 何が面白いんすか。

透 別に面白くはない。

義雄 面白くないことを何でするんすか、出来るんすか。

透 知らんわ。

義雄 ええなあ。もし就職決まったら絶対OL、紹介してくださいよ。

透 OL?

義雄 夢なんすよ、OLと付き合っくん。

透 諦めろ。

義雄 ちよつとお。

透 考えとくわ。

義雄 マジすか。絶対ですよ、絶対ですからね。

透 ちなみにOLって何の略か知ってる?

義雄 何すか略って。

透 だからあれは英語の頭文字をとってるわけやろ。

義雄 嘘でしょ? 何すか! 頭文字って!! OLっすよ!!

黒いタイツっすよ!!

透 ごめん。何でもない。

義雄は透の股間を触る。

透 おい!

義雄 大丈夫すか。溜まってないすか。俺、透さんが紹介

してくれるなら……

透 (遮って) 気色悪いこと言うな!!

義雄 透さん!! 好きです!! 透さんのおちんちん、俺

に抜かせてください!!

602から京子が入ってくる。

京子 あんたたち、何してんの。

義雄 あ、お邪魔してます。

京子 みーちゃんに餌、あげてくれた?

透 ああ……あんな、俺、来月2日ぐらい東京行ってくるわ。

京子 東京? なんで?

透 最終面接があつて。

京子 あんた、大阪の会社受けてたんちゃうの?

透 なんか大阪でも説明会があつて、受けたらたまたま(通って)。

京子 そうか……よかったな。

透 でも全然わからへん。行くかどうかは。てかまだ何にも決まってるないけど。

京子 いいやん、行き行き、東京か……いいやんいいやん。

透 うん。

京子は透の顔を触ってから、抱きつく。

京子 あーあ。いつのまにかこんなに大きくなって。

透 おい。

京子 何? お母ちゃんに抱き寄せられて恥ずかしがってん

の。あんた来月で幾つになるん?

義雄 23です。

京子 23。なんでお前が答えるん。

透 透さん。マジとびっきりのプレゼントぶちかますん

で。

透 もうそんないらんねん。てかいつまでくつついて

んねん。

京子 ええやんか。

義雄 いいじゃないすか透さん。俺の母親なんてそんなこ

としてくれませんよー。

京子 せやろー。特別やで。

義雄 ひよー。

透 あーもう暑いねん。

透は京子の身体を離す。

すると昌美がベランダに顔を出す。

昌美 あ、帰ってきてたん。

京子 うん、今。

昌美 あんたらのご飯、今日はうちが作ったる。

京子 あんたたち、何してんの。

義雄 あ、お邪魔してます。

京子 みーちゃんに餌、あげてくれた?

透 ああ……あんな、俺、来月2日ぐらい東京行ってくるわ。

京子 東京? なんで?

透 最終面接があつて。

京子 あんた、大阪の会社受けてたんちゃうの?

透 なんか大阪でも説明会があつて、受けたらたまたま(通って)。

京子 そうか……よかったな。

透 でも全然わからへん。行くかどうかは。てかまだ何にも決まってるないけど。

京子 いいやん、行き行き、東京か……いいやんいいやん。

透 うん。

京子は透の顔を触ってから、抱きつく。

京子 あーあ。いつのまにかこんなに大きくなって。

透 おい。

京子 え。いいの?

昌美 鯛。

京子 鯛?

昌美 めちゃくちゃ美味しく煮付けたるし。一人で食べる

のはかなんねん。一緒に食べよう。なあ、透君も食べた

いやろ?

透 えーつと。

昌美 決まりな。あと1時間ぐらいかかるから。お腹空か

して待つといてな。

義雄 すいません。もう僕は空いていますね。

昌美 ちよつと透君と遊んでいいや。

義雄 動けないす。

透 義雄。キャッチボール付き合つて。

義雄 えーまたすか。

透 最近、面接やら何やらで、頭、パンクしてんねん。

義雄 キャッチボールのどこがおもしろいんすか? 取って投

げるだけじゃないすか。

透 それがいいんよ。反復運動は頭の整理には最適やね

んで。

義雄 また賢なこと言っちゃって。

透 おい、いくぞ。

義雄 はい。

透 (京子に) ちょっと行ってくる。  
京子 道路にボール投げんといてな。  
透 子供じゃないんやから。

義雄はサンダルを脱ぎ捨て、602に去る。

透 義雄!! サンダル!!

透はサンダルを直してから、602に去る。

京子 すごいな。鯛って。

昌美 マンションも買ったし、これからは贅沢すんねん。

ええやる?

京子 そっか。

昌美 ……

京子 何?

いつのまにか京子はせわしなく手先を弄っている。

昌美 どうしたん。なんかあったん?

京子 え? 別に何も……

昌美 手。

京子は手先を弄るのをやめる。  
いつの間にか夕焼けが広がっている。  
それに気がつく二人。

昌美 ちょっと待ってて。

昌美は601へ。

しばらくすると缶チューハイを二つ、持ってくる。

昌美 はい。

京子 あんたご飯ええの?

昌美 今、煮付け中。ほら開けて開けて。

二人は缶を開ける。

昌美 かんぱーい。

二人は飲む。

昌美 どう?

京子 どうって?

昌美 ハワイな感じしない?

京子 ……

昌美 ハワイの夕暮れ。サンセット?

京子 ……日本。

昌美 目、瞑って。

京子は目を瞑る。

昌美 ……透くん、決まりそうなん? 就職。

京子 あの子なら大丈夫。

昌美 そうやな。

京子 あの子にはうちみたいにはなつて欲しくないねん。

昌美 うん……

京子 ……もしかしたら東京行くかもしれへん。

京子は再び手を弄りだす。

昌美は京子の手元を見る。

昌美 ……お金、いるな。

京子 うん。

昌美 東京ってこここの倍ぐらいするらしいわ。

京子 うん。

昌美 ……何が不安なん。  
京子 昌美、うち、またやってしまいそう。  
昌美 大丈夫……大丈夫やから。

☆

10日後。

601から、肩にバッグをかけた熊谷りさが出てくる。  
続いて義雄も出てくる。

義雄 何だよ。

りさ ……

義雄 一週間経ったやん!!

りさ ……

義雄 付き合って一週間記念日!!

りさ ……

義雄 やらしてくれる言うたやん!!

りさ ……

義雄 見てみ!あの寝袋!今日という日のためにやな!

バイト代はたいて買ったんや!!

りさ ……

義雄 ちよつと前まで昌美おばちゃんが住んでたんやけど、ごつといとところに引越してさあ。管理人にバレる

までここ、使い放題やねん!!ちよつとスナイパーばくな

いけ?テレビしかない部屋に寝袋で!!

りさ ……

義雄 指折り数えて待ってきた!!待つのは苦手やん!!

褒めてよ!!

りさ ……

義雄 お前にはわからへんかもやけどな。童貞っていうのは大変なことやねんぞ……負けやねん、20すぎて童貞

やったら。遅れをとつとんねん……常になんか……苦

りさ ……

義雄 じゃあキスは!?

りさ 無理。

しいねん。

りさ ……嫌や。

義雄 何でえ!!

りさ 無理。まず……その顔。

義雄 え。

りさ あとその喋り方。あと全然人の話を聞いてないところ。

あとそのネックレス。何それ?ドンキで買ったん?

かっこええやないか!!

りさ 自分キリスト教なん?

義雄 キリスト教?

りさ アーメン言いよるん?

義雄 何やアーメンで。

りさ あと頭の悪いとこ。

義雄 ……何でそんな言うん。

りさ あとすぐに泣きそうなるところ。

義雄 なってない!!

りさ なってるわ。

りさ ……

義雄は土下座をする。

義雄 頼む!!めちやくちや好きやねん!!

りさ ……嫌や。

義雄 じゃあキスは!?

りさ 無理。

義雄はポケットからリカルデントガムを出す。

義雄 ガムも買った!!

りさ ……帰る。

りさは601へ去ろうとする。

義雄はりさの手をとる。

義雄 ちよつと待ってて。

りさ 離して。

義雄 ええやんキスぐらい。

りさ 嫌!!

義雄 お前、ええ加減にせえよ。誰のおかげで助かった思っ

てんねん。

義雄は無理やり、りさを引き止める。

りさの肩からバッグが落ちる。

りさの身体が602の網戸に当たり、音を立てる。

もみ合う二人。

義雄 何でやねん!!

すると602から、缶ビールを持った建人が入ってくる。

建人は二人の顔を見る。

義雄 ……へへ。

建人 そこはお前のやり部屋ちゃうぞ。

義雄 ……いいじゃないすか。しばらく入る人もいないん

やし。

建人 落ち着け。

建人は義雄の肩に手を置き、

建人 ガキの頃から治らへんな。

義雄 もう治ってますよ。

建人 一回、深呼吸してみ。そしたらマシンになるから。

義雄は暴れ出す。

義雄 離せよこら!! 離せよ!! 俺の女なんすけど!!

その女をどうしようと俺の勝手やないすか!!

りさ うちはその人の女なんかじゃない。

義雄 おめー!! 付き合おう言うたら頷いたやんけ? ずっと我慢しててん! 俺の言うことなんでも聞く言うたやんけ!!

りさ そんなこと言うてないわ!!

建人は義雄の頬を叩く。

建人 帰れ言うてんねん。俺の言うことが聞けへんのか。

義雄 ……

義雄は601へ去る。

りさ あの……ありがとう。

といい終わらないうちに、建人はりさの髪を掴む。

建人 今、何時? 真昼間から学校も行かんと何してんねん。

見つめ合う二人。

透 ……いつ、帰ってきたん。

建人 今。

透 ……もう帰ってくん言うたやん。

建人 そやったけ? でもそれは無理やわ。だって俺はお前のお父さんやもん……久しぶりやな。お前いくつになったん? 乾杯。

建人は缶ビールを飲む。

建人 やっぱスーパードライやな。これ一択。他は認めへん。

透 昼間っから酒飲むの、やめてくれんか。

建人 なんで。

透 あんたが酔って暴れたら手がつけれへん。

建人 じゃあなんで昼間っからって言ったん? いらんやん、昼間。別にええやんな。なんでみんな昼酒はあかんって言うんやろな。昼飲んで暴れても夜飲んで暴れてもそれは別に一緒やん。なあ? でもさすがお前のおかんやわ。気が利かへん。ビールはあっても柿の種はない。わかっ

りさ ……

建人 女がレイプされたらどうなるかわかってんのか?

お前、これからそれ引きずっていく勇気あるんけ?

ああ?

りさ ……すいません。

建人 すいませんちゃうわ!! 勇気があんのかないのか

聞いてんねん!!

りさ ……

建人 こんなボロボロの団地に連れ込まれてよ。

りさ ……

建人 なんやその顔。

りさ ……離してよ。

建人 あ?

りさ 痛い!! 髪の毛!! 痛い!!

りさは建人の手を振りほどく。

建人 お前、俺の言うこと聞いてんのか?

りさ 何を偉そうに!! あんたなんか何がわかるん?

りさは601へ去る。

すると602から、透が入ってくる。

てない、わかってないわ。スードラには柿の種やん。セツトやん。この二つは運命共同体やからね。俺、スードラな? お前、柿の種な。で、おかんがピーナッツやわ。義雄はそうやな……袋の底に溜まったチンカスやな……ほら。

建人はテーブルに置いてあったDVDを透に投げる。

建人 買ってきたった。

透 ……いらん。

建人 お前の「いらん」は「いる」やん。それ見て、しっかりオナニーしよ。誰もいない砂漠、テント、砂混じりのセックス……黒いらくだ。カンヌ騒然やからね。何人もあのシーンで席立ったらしいぞ。

透 これは俺がこの世で一番「嫌い」な映画やねん。

建人 つまりこの世で一番「好き」な映画なんやね。あ。

透 そういえば主演の女優、さっきの子、そっくりやな?

透 さっきの子?

建人 義雄が連れ込み寄った子。たぶんお前の好みやわ。お前の昔の女によう似とる……お前、一貫してんな? 偉いぞ。

透 殺すぞ。

建人 殺す？お前に俺が殺せんのか？

透 ……

建人 今日の晩御飯、何やらなあ…：楽しみやなあ。

建人は602へ去る。

しばらくするとりさが戻ってくる。

りさはバッグを拾う。

沈黙。

りさ ここってどういう構造なん？ベランダが共同ってか

なり珍しいよね。

透 ……

りさ さっき玄関で確認したけど、こつちが601で、

こつちが602やんね。どうなってんの？

透 誰か知らんけど帰って。疲れてんねん。

りさ ……

りさは602を覗く。

りさ ねー…：ここって水も出るん？

透 帰れ。

りさ 今日さ。ここ、泊まっていい？今、ちょっと

家、帰りたくないよ。

透 あ？

りさ いいよね。そうする。

透 いいわけないやろ。

りさ なんで？ここってあなたの家じゃないやろ。

もちろん無断で使ってるんやんね？管理人さんとかおら

へんのここ？

透 ……そこにおつたらまたあいつに会うぞ。

りさ いいよ。また助けてくれるもん。

透 あ？

りさ 大丈夫。長居はせーへんから。とりあえず一回帰っ

て準備してまたくる。あ。今、何時？

りさは透の腕を掴み、時計を見る。

りさ 鬼子（おにっこ）ちゃんって知ってる？

透 何それ。

りさ お笑いコンビ。

透 知らん。

りさ めっちゃおもしろいねん。あんな、いっつも漫才す

る時な、「どうも地獄から来ました地上はいいね!!」っ

て言うねん。めっちゃ好き。鬼子ちゃん終わったたら、家

から荷物取ってくるし。

透 俺、今からバイトやねん。お前を置いて出ていくわ

けにはいかん。

りさ 今から？何の？

透 お前には関係ないやろ？

りさ ふうん…：待ってるわ。帰ってくるの。一緒に見る？

透 ……

りさは602へ去る。

透は椅子に座り、DVDをゴミ箱に捨てる。

テーブルに残された缶ビールを手にとり、弄り始める。

☆

ベランダで建人が寝そべっている。

テーブルには大量の缶ビール。

それを見ている京子。

☆

昌美と京子がベランダにいる。

昌美はテーブルに置いてある煙草を手取る。

昌美 4、支払い意思の最終確認…：

昌美は601へ去る。

すぐに小冊子を持って戻ってくる。

ポケットから煙草を出し、火をつける。

昌美 何度も言うけどこの基本五原則は絶対にやねん。

これが一個でも欠けたら保安はあなたに声かけられへん

ねんから。

京子 うん。

昌美 なんも考えんとやったら絶対捕まるからな。まだ昔、捕まった時のこと覚えてるやろ？ めっちゃめちゃ怖かったやろ？

京子 ……うん。

昌美 その気持ち、忘れんといてな。京子はむしろ運が良かったって思ったらいいよ。処罰されずに、でも捕まる怖さを思い出せるんやから。これ、めっちゃ大事やで。みんな、なんで捕まるか言うたらな、どんどんやっついてくうちに忘れていくねん、捕まる怖さ。で、動きが雑になつて大胆なつておしまい。

京子 ……うん。

昌美は小冊子を差し出す。

昌美 はいこれ。

京子 何これ？

昌美 警備会社つてな、年に二回現認研修つてのがあってな、警備員とか保安員はそれ、絶対受けなきゃ働けないつて法律で決まってるんやけど。それ、研修のときに配られる冊子。そこに保安員としての心構えとかさつきやつてもらった基本五原則とか、どういったパターンで万引

きを見抜くとか、全部書いてあるし。とにかく重要な

のは、保安は警察官じゃないつてことやねん。一般人やから何の権限もない。保安が万引きを捕まえられるのは現行犯の時だけ。つまり証拠よ、証拠さえ見つからんかったら絶対に大丈夫。さっきの続きで行くとき。もしやで、このキャラメルとつて保安に捕まったとするやろ。

昌美は再び煙草をポケットに入れて取り立ち上がる。

昌美 でも、事務所連れて行かれる時に、このキャラメル、保安員にバレへんように店内に捨てんねん。そしてどうなる思う？

京子 わからへん。

昌美 あんたの勝ち。なぜなら証拠がないから。

京子 そうなん？

昌美 もちろん防犯カメラのなとこで捨てるんやで。保安は証拠がなかったら何も出来ひん。まあ、あんたがうちと組む限り、そんなことは万が一にもないけどな。

京子 ……大丈夫かな？

昌美 100パー大丈夫。だってうちが入ってる店でやるねんもん。バレようがない。そやる？

京子 ……うん。

昌美 めっちゃ嬉しいわ。絶対うまく行くよ。随分前にこの話したとき全然乗り気じゃなかったし。あとでメールで勤務地のシフト送るわ。

京子 あのさ、昌美もやっぱりさ……ドキドキするん。

昌美 当たり前やん。平装束つても、心臓はバクバクよ。だつてもしバレたら当然、保安の仕事はクビ。万引き捕まえる人間が実は万引きつて……なあ？

京子 リスク、デカすぎひん？

昌美 めちゃくちゃでかい。でもこれのおかげでうち、マンション買えたんやで。10年間食費ほぼゼロやで。どっちを取るかって話よ。それにさ、わかるやろ。あのバクバクがさ……

京子 ……うん。

昌美 ……やろ？ あれつてな、ドーパミンが出てんねん。ドーパミンって知ってる？

京子 知らん。

昌美 なんかな、脳内物質。外国で実験があつてん。セックスしてる時に出てくるドーパミンと、万引きしてる時のドーパミン、どんだけ違うかって。そしたらな。快樂の量は万引きもセックスも同じやっつたらしいよ。

京子 ……

昌美 でもしたいわ。セックスも。

京子 ……

昌美 最近、ちょっといいなつて思う人がいんねん。スーパー向島の店長。好きやねんか、ああいう顔。

京子 信じられへん。

昌美 なんて。

京子 豚やん。

昌美 なんてー。シュツとしてる。

京子 どこが？

昌美 え？ 細いやん。

京子 あれで細いつていうん。

昌美 細ない？

京子 あんた、目、おかしいんとちゃう？

昌美 なあ、京子。今日、夜、パート終わんの何時？

京子 9時とか。

昌美 うち、これから24時間スーパーの夜勤やねん。

京子 え。

昌美 やつてみよか。

京子 ……ごめん。やっぱり……

昌美 ……何？

京子 ……透はな。うちに癖があつたこと、知らんねん。私が初めて捕まってあの人に家でポコポコにされた時もただ意味もわからんと泣いとつた……それからずつとし

てなくて……だから急にあなたの紹介で保安のバイト始めるって聞いた時、ものすごくびつくりした。もしかしたら透はうちが何をしてたか知ってたんちゃうか？うちがまたやらへんよう監視するためにそんなバイト選んだんちゃうんか？だからもしうちがまた捕まったらきつと透はうちのこと、お母ちゃんって呼んでくれへんようになる……そんな気がして……

昌美 (遮って) お金、必要やねんな？

京子 ……

昌美 あんたが透くんの将来、台無しにしたらあかんわ。助けたらんと。それが母親の役目やんか……

昌美は601へ去る。

沈黙。

誘われるように京子も601へ消えていく。

☆

その日の夜。

りさが椅子に座って、ペディキュアを塗っている。

足はテーブルの上。

塗り終わると缶チューハイを手に取り、一口飲む。

りさ 甘あ。

602の電気がつく。

京子の声 ただいまー。

京子が602から顔を出す。

りさと目が合う。

りさ あ、こんばんは。

京子 あ、こんばんは。透の？

りさ 透？あ、はい。お邪魔してます。熊谷って言います。

京子 そう、よろしくね。

りさ はい。

京子 あの子、おる？

りさ いえ。仕事で出ていきました。

京子 そうや、言うてたわ。今日、遅いシフトや言うて。

言うてた言うてた、言うてたわ。

京子はベランダへ出てくる。

りさ はい。

京子はテーブルのマニキュアを手に取る。

京子 みーちゃん見た？  
りさ みーちゃん？  
京子 猫。  
りさ いえ。  
京子 あの子、デリケートやねん。だから毎日変えたらんと……

京子は餌のプレートを持って602へ去る。  
新しい餌を入れて、すぐ戻ってくる。  
プレートを置いて椅子に座る。  
煙草を取り出し、火をつける。

りさ あの……大丈夫ですか？

京子 あんたご飯は？一緒に食べてく？

りさ ……はい。

京子 嫌いなもんとかある？

りさ (首を振る) でもいいんですか？

京子 かまへんよ。ちよつとおばちゃんドキドキするわ。

だつて久しぶりやもん。あの子が女の子連れてくるなんて。

りさ あ、違います。全然そんなじゃなくて。

京子 そうなん？まあええねん。仲良くしてあげて。

京子 マニキュア？  
りさ あ、ペディキュアです。  
京子 ペディキュア！  
りさ (苦笑して) はい。  
京子 足に塗るやつやろ。うちやったことない。ちよつとわからんねん、ペディキュアって。だつて靴履くんやろ？  
見えへんやん、せやのになんで？  
りさ えつとサンダルだつたら見えますし。  
京子 あー。  
りさ でもサンダルじゃなくても私はします。要は自己満足なんで。かわいいじゃないですか。  
京子 ちよつと見して。

京子はりさの左足をとる。

京子 かわいいな。

りさ やつてみます？

京子 ええの？

りさ はい。

りさは椅子を移動させて京子の隣へ。  
ペディキュアを京子の足爪に塗り始める。

京子 足、臭かったら言うてな。

りさ 大丈夫です。

京子 嘘、臭くても言わんといて。

りさ はい。

京子 ごめんな。ちょっと今、うちおかしいやろ？

りさ え？

京子 わかってる。わかってんねん。でも、うん……

問。

京子 付き合ってるの？あの子と。

りさ いや違います。今日初めて会いました。色々あって

……

京子 へー。でもいい子やろ。

りさ あ、はい。

京子 どの子。

りさ 東寺です。

京子 東寺の子か。じゃあ学校は？

りさ ダム女(じよ)です。

京子 (※)ノートルダム女子大学の略

りさ ダム女？あんたお嬢様なん。

りさ まあ。

京子 ごめんな。汚いところで。

りさ 全然そんな。

京子 あんた今日、どうやって帰んの？

りさ それなんですけど、ご迷惑じゃなければ隣に泊まっ

て行けたらとか思ってるんですけど。

京子 そうしそうし。絶対夜道一人で歩いちゃあかん。

りさ 透も帰ってくるの遅いし。

京子 ありがとうございます。

りさ それにうち、あんたのこと気に入ってん。

りさ え？

京子 うん。やっぱりそうや、さっき初めて顔見たときに

も思ってたん。

りさ ……何を思ったんですか。

京子 もうちょっと仲良くなったら言うわ。

りさ はい。

京子 ちょっと落ち着いてきた。

りさ よかったです。

京子 うわー……てかうち、この歳になって何してんねん。

と京子は立ち上がる。

つま先を見ながらペランダを歩く。

とても嬉しそうに。

京子 (透に) ご飯すぐできるしな。

京子は602へ去る。

入れ違いで透がペランダへ。

りさ 透くんって映画好きなんですか？

京子 あーうん。何で？

りさ DVDがたくさん置いてあって。

京子 なんや映画撮りたいんやって。でも日本で映画撮る

には学歴がいて、いい会社入らなきゃ無理やねんて。

だからな、あの子、毎日必死に勉強してるんよ。あんな

イカツイ顔してな。勉強って顔じゃないやろ？でも賢い

ねんな。一体誰に似たんやろ。

602の扉が開く音。

京子 あ、おかえりー。(りさに) ご飯もうちょっと待っ

てね。

りさ はい。

京子は602へ。

透 ほんまに泊まんのけ？

りさ うん。お母さんにも許可もらったし。

透 え。

りさ ペディキュア塗ってあげてん。

透 ……おい。一個だけ約束しろ。

りさ 何？

透 絶対夜中に出歩くな。それから6時以降、この団地

のあたりウロウロすんな。

りさ 何それ。

透 わかったかわかってないかどっちや。

りさ わかった。ねえ、たくさんDVDあるやん。見ても

いい？

透 あ!!

透は急いで601を覗く。

透 お前、何勝手に整理してんねん。  
りさ いいやん。てか透君もAVとか観るんや。  
透 ……

りさ ごめんやで。見つけてしまった。  
透 違う、あれは義雄がやな……

りさ ねえ、あのたくさん映画の中で一番のオスス  
メって何？ 今日寝る前に見よう思ってたんねん。

透 お前、映画なんて観んのか。

りさ たまに。

透 どんな映画？

りさ ー……なんかハリウッドの。

透 何やそれ。

りさ ……色々沈没するやつ。

透 ……

透は601へ。

すぐにDVDを戻ってくる。

透 ええか。今、時代は韓国映画やねん、ほら。

透はDVDをりさに渡す。

透 今年一番のやつ。

りさ どんな話？

透 観たらわかる。

りさ ふうん。

透 あ、そや。これ。

透はポケットから映画のチケットを二枚渡す。

透 言うたっけ？ 俺、保安のバイトしてるんやけど。

勤務先の店長にもらってたさ。もし良かったら行ってくれ

へん？

りさ ……うん。

透 悪いな。あいつにも色々あんねん。遊んでやってく

れ。

りさ え？ あいつって。

透 え？ 義雄。

りさ え？ これってじゃ……義雄と行けってこと？

透 うん。

りさ ……

りさはチケットを返す。

りさ 嫌や。

透 何で？

りさ なんてうちを犯そうとしたやつと付き合わなあかん  
のよ。

透 悪気はなかったんよ。ちょっとスイッチが入ると歯  
止めがきかへんようになるねん。

りさ ……

透 頼むわ。あいつには何て言うか……お前みたいなや

つが必要やねん。

りさ お前みたいなやつって……まるでうちのこと全部  
知ってるみたいな言い方やね。

すると601から義雄が入ってくる。

義雄 あ。

りさ ……

義雄 あのその……

りさは透からチケットを奪って、義雄に渡す。

りさ はい。

義雄 え。

透 今年一番のやつ。

りさ どんな話？

透 観たらわかる。

りさ ふうん。

透 あ、そや。これ。

透はポケットから映画のチケットを二枚渡す。

透 言うたっけ？ 俺、保安のバイトしてるんやけど。

勤務先の店長にもらってたさ。もし良かったら行ってくれ

へん？

りさ ……うん。

透 悪いな。あいつにも色々あんねん。遊んでやってく

れ。

りさ え？ あいつって。

透 え？ 義雄。

りさ え？ これってじゃ……義雄と行けってこと？

透 うん。

りさ ……

りさはチケットを返す。

りさ 映画、行こ。

義雄 ……おお！

りさ ただし、もう絶対にうちに乱暴せんといて。

義雄 しない。

りさ 次はない。

義雄 次はない。ごめん、俺、お前に謝ろう思って、でも

どう謝ったらええかわからんからとりあえず透さんに相

談しようと思つて、そしたらお前がおつて俺のこと、許

してくれた……へへ。

りさは601に去る。

義雄はりさの持っているDVDに気がついて、

義雄 DVD観るん？ 俺も一緒に観る。

義雄も601に去る。

建人が602から入ってくる。

手には缶ビール。

透 ……何かおかしいん。

建人 情けないなあ思つてさ。ええの？ 女が一人で来てん

ねんで、やることは一つやん。それを何を義雄なんかに譲ってんねんな。男は女犯してなんぼやぞ。

透 何しに帰ってきたん……あんたがおらへん間、お母ちゃんも俺もそれなりにやってきとんねん。もうここはお前の家じゃないねんぞ。

建人 いいや、俺の家よ。俺はずっと昔からここにおんねん。それこそ地球ができた時からここにおるわ。手を替え品を替え、<sup>すがたかたち</sup>姿形を変えてさあ。かっこええやろ。

透 全然意味がわからへん。

建人 嘘お。ほんまはわかってるくせに……お前、いつからそんな顔するようになったんよ。子供の頃は可愛かったのになあ。

透 どうやったらここから出て行く？金か？

建人 どうやったら？そうやな。お前が俺に出て行って欲しくないって思ったら出て行くわ。ごめん。俺、天邪鬼やねん……てかいやん。お前、東京行くんやろ？

透 何で知ってんねん。

建人 そりゃあわかるよ。おかん、随分落ち込んでたぞ。

透 え。

建人 嘘お。気がついてたやん。

透 おかんは喜んでくれてる。

建人 喜ぶってそういうこと？

透 ……おかんは喜んでんねん。おかんには俺しかないないねん。

建人 せやん。でもお前はおかんを置いて出て行くんやな。過去を捨てて東京で未来を描くんよ。

透 俺はおかんは捨てへん。

建人 捨てるんやろ？かまへんかまへん。お前がいなくなったら夫婦水入らずよ。ちなみに俺とおかんが仲悪くなっただんはお前のせいな。

透 ……

建人 俺がおかん殴るんもお前のせいやん。お前が金かかるからやん。

透 ……

建人 殺したくなってきた？……一回、俺のことここから落としてみるか？かまへんぞ？100パーセント死ぬるわ。どう？やってみーひん？

透 ……

建人 猫って凄いやな。あいつら何でもない顔で綱渡りしよる。あいつらは死ぬことが怖くないんやろか。ほら、落としてみるって。なあって。

透 ……

建人 出来へんってことは所詮その程度ってことよ。お前、もしかしてお母ちゃんを助けなきゃとか思ってたん？

やめとけ、腐れちんぼが。

透 ……

建人 今日の晩飯、何やと思う？ハンバーグ。お前、好きなんな？俺も好き。

☆

義雄が空に向かって十字架のネックレスを投げようとしてる。しかしどうしても投げることができない。

透は椅子に座って本(『青の炎』)を読んでいる。

義雄

ちよつと俺、どうしたらいいんすかあ!! どう考え

てもあいつ、俺のこと好きじゃないぼいんすけど……俺、

片思いでググったんすよ。そしたらね、世の中の恋愛って、ほとんど一方通行やって書いてあって……そんなア

ホなっているか、ほしたら何で世の中、こんなにカップル溢れてんねんって話でしょ。そーでしょ？何が問題な

んすか俺の。俺ってぶっちゃけどうなんすか？透さん、ねえって……全然聞いてないじゃないすか……聞いて

ないし、本読んでるし。本読みながら俺の恋バナ聞くとかありえへんし。

義雄は透の前で胸をせり出し、踊り始める。

透 うっとうしいの!!

義雄 やっぱりこれ捨てた方がいいすか。あいつ、嫌いみ

たいでこれ。ものすごく嫌な目でこの十字架見よるんです。でも俺はすごい気に入って。別のサイトには恋愛っ

て妥協やとも書いてあって、でも絶対に譲ったらあかんとこはあって。それは死守せなあかんと書いてあって

俺、全然わからなくて……

透 ……

義雄 あ……

透 ……

義雄 すんません。俺、

透 (遮って) お前のせいで本読めへん。

義雄 俺のせいすか。

透 そうや。

義雄 すんません。

透 謝んなら踊んな。

義雄 だって透さん全然聞いてくれへんし。

透 お前と話してると俺までどうかしてくるわ。

義雄 (嬉しそうに) うっす。

透 褒めてない、褒めてないよ。ところでお前、あいつ

とどうやって知り合ったん。

義雄 え。

透 お前、あんな女と知り合う機会なんてそうそうないやろ。

義雄 それはその……ナンバっす。

透 ……

義雄 ほんとですよ。

透 ……

義雄 違うんすよ。

透 ……

義雄 いや、ドラッグストアで見かけて。そしたら化粧品

ポケットに入れて。だから声かけたんすけど、絶対黙ってて欲しいって言われて。

透 お前なあ。

義雄 いいじゃないすか。そうやって俺が見逃すことで、

色々といつは助かってるんやし。

透 黙っとくから付き合ってくれって？

義雄 そんなことは言っていないです。

透 お前、それ、一種の脅迫やぞ。

義雄 違いますよ、俺はあいつを救ったんすよ。

透 お前、やっぱり向いてないわ保安の仕事。

義雄 じゃあ俺はどうしたらいいんすか。

透 他にも色々あるやろ。

義雄 ないっすよ、どこ行ってもバカにされるし。ほんで  
すぐ喧嘩してクビやし。

透 なんかやりたいこととかないの？

義雄 透さんみたいになりたいっす。大学は無理でも保安  
ならできます。

透 ……とにかくお前がやってることは犯罪や。二度と  
すんな。

義雄 うす。

透 お前、よくそれであいつと付き合えると思うな。

義雄 だって……

義雄は泣きそうになる。

透は義雄を抱き寄せる。

透 ごめんて。

義雄 なんで俺ってこんなにダメなんすか。

透 ダメじゃないよ。お前なりに頑張ってるよ。

義雄 透さーん。

するとりさが601から入ってくる。

透 顔洗ってこい。ぐちゃグチャやん。  
義雄 あい。

義雄はりさに気がつく。

慌てて601へ去る。

透は、義雄の脱ぎ散らかしたサンダルを直す。

りさ どうしたん？

透 いや別に。

りさ あいつ、ほんまに泣き虫やんな。

透 昔から。

りさ そうなん。いつから一緒なん？

透 小学校の頃から。

りさ あの人、これからどうするん？

透 どうするって？

りさ 一人じゃ何も出来へん感じ。

透 (笑って) そうやなあ。

りさ あんたが全部世話してきたんやろ。

透 ……わかる？

りさ あんたのせいやで。

透 いきなり突っ込むなあ。

りさ 義雄の今後はあんた次第って感じ。

透 ……ごめんな。聞いたよ。あいつに脅されてたんやっ  
て？

りさ ……

透 そんなことも知らんと、あいつと付き合いえとか言っ  
て。デリカシーなかったわ。

りさ 別にいいよ。それに脅されたわけじゃない。なんか  
どうでも良かったん……

透 お前、そういう癖あるんけ？

りさ 違う。あんなんやったん初めて。わざとやねん。

透 うちが万引きで捕まったら親に迷惑かけれると思ってる  
れで……アホやったわ。

りさ ……

透 からはあんたが羨ましい。お母さんと仲よさそうや  
から。

りさ ……

透 うち、お母さんのこと嫌いやねん。嫌いっていうか  
な、お母さんを嫌いになる自分が嫌いっていうか……

りさ なんかうち、お母さんみたいやねん。誕生日迎えるごと  
にどんだんお母さんになっていくねん。顔も身  
体も考え方も何もかも……絶対にお母さんようにはな  
りたくないって思えば思うほど、うちはお母さんになっ  
て、お母さんの嫌いなところ、それはうち自身のことで

もあって……ごめん。何でもない。

透 ……どうやった。義雄と観に行っちゃつ。

りさ うーん。端的に言っつてクソやったわ。

透 口、悪う。

りさ ありえへん。「ももちゃんは僕が守る！」ってあれ、何？

透 知らん。見てへんし。

りさ 高校生同士の色恋沙汰っただけで、うちはあかん。

透 そうか。悪かったな。

りさ でもあれは良かったで。韓国映画。最高。

透 やろ？

りさ ウオンビンめっちゃかっこいい。

透 え、そこ？

りさ かっこいいやん。

透 かっこいいけれども。もつと違うやん、ウオンビンと母親の心の交流がやな。

りさ でもそれっつてウオンビンにかっこよさがあった初めてそうやん。ウオンビンがハゲでデブの親父やったら絶対あんなことになつてないよ。

透 それはいいやん映画やねんから。

りさ 次のオススメは？

透 次？次はそうやな……

601の扉が閉まる音。

透 今、出て行つた。お前に泣き顔は見せられへんつてさ。

二人は笑う。

りさ 今日な。言いたいことあつてきてん。うちとな、付き合っつてくれへん？

透 え？

りさ 好きやから。

透 ……いや、でも義雄がお前のこと……

りさ 義雄は別にうちのこと好きちゃうよ。義雄は恋愛したいだけ。それぐらいわかる。

透 ……

りさは透から携帯を奪つて、電話をかけ始める。

透 おい。

りさ あ、もしもし、うち。うちな、今日から透くんと付き合うことにした。

りさ あ。

りさはテーブルに置かれた文庫を取る。

りさ これ、映画化されたよね？嵐のニノと松浦亜弥が主演で。

透は文庫を取り戻す。

透 よう知ってるやん。

りさ 昔テレビでやってた。好きなん？

透 いや別に。

透の携帯電話が鳴る。

透 はい、もしもし。どうしたん……え？

おるけど……お前、何言うてんの？お前、いつから武士になったんや……おい、義雄。あ、切りよつた。

りさ 義雄から？

透 うん。

りさ 今、どこおるん？

沈黙。

りさ (透に)めっちゃ泣いている。(再び電話で)でもうち、あなたに同級生のめっちゃかわいい子紹介してあげる。だから泣かんといて。

沈黙。

りさ (透に)泣き止んだ。

☆

映画館。

スクリーンをみつめる、透とりさの背中。

☆

ペランダの椅子に京子が座っている。

京子のはげかけたベディキュアを見ている。

テーブルにはトートバッグと大きめの麦わら帽子。チャイムの音。

沈黙。

再びチャイムの音。

しばらくすると、602から団扇を持った昌美が入ってくる。

昌美 ごめんごめん、鍵かかってへんかったし。ベル鳴らしたんやけど。

京子 ごめん。聞こえんくて。

昌美 そう？

昌美は椅子に座って、テーブルに置いてあるバッグの中からCDを5枚、驚掴みで取り出す。

昌美 最近の子はみんな細くてカッコええな。

京子 ……大丈夫なん？

昌美 またその話？

京子 だって、あんた、全然言うてた事と違うやん。あんたは保安で入ってへんし。

昌美 そりゃあパターンは色々あるから。でもうまくやってくれたやん。めちゃくちゃドキドキしたわ。うちが客のふりして防犯ゲートのところにCD持っていて、わざとブザー鳴らす。走ってきた店員にうちは「ごめんなさい、レジそっちゃねんね」。ブザーが鳴る中、あんた

が後ろを通り過ぎる……我ながら完璧な計画やわ。

京子 ……

昌美 大丈夫。絶対バレてへんから。

京子 在庫は？食品と違ってCDとかDVDは数数えてるやろ。

昌美 それは……数えてる。

京子 あかんやん。

昌美 いいねん別に。盗まれたのはバレたって。問題はあんたってバレへんかったらええだけの話やから。帽子

被ってたら絶対にわからへん。大体、何度も言うけど基本、万引きは現行犯逮捕。ていうか楽しみやわ。あの店でCDがないって発覚した時が。あそこに入ってる保安、安藤いうババアやねんけど、めちゃくちゃ嫌いやねん。一回ツーポストの時、一緒に入った事あんねんけど、うちに指図してきてな。ほんまにこいつって思ってたから。CD10枚DVD10枚も盗まれたら保安の信用かたなしよ。まさか休憩中にやられるとは思ってなかったやろうし。

京子 それどうすんの。

昌美 売るんよネットで。ヤフオクって知ってる？簡単にモノ、売れんねん。EXILEの新譜やったら半額で売れるし。ほんまはゲームソフトが一番ええんやけど。最

近、どこも万引き対策で箱売りやろ？箱バクってもしゃーないしなあ。

京子 もうやらん。

昌美 なんてえ。

京子 そんな……CDもDVDも欲しくないし、私はただ透のために……

昌美 わかってるよ。でもこれ売ったお金で積立できるやん。食材盗むよりずっと効率いいのはわかるやんな？

京子 でも……

昌美 わかった。じゃあ在庫管理あるやつは月一にしよう。やっぱり頻繁には出来ひんし。で、一回行ったところは二度と行かん。普段はいつもみたいに食材中心でいこ。

京子 ……

するとスーツ姿の透が手に土産を持って、入ってくる。

透 ただいま。

京子 おかえり。

透 こんばんは。

昌美 就活？

透 ちよっと東京まで行ってて。

昌美 そうなん。疲れたでしよ。

透 すごい人でした。あ、お土産買ってきたんで。

と昌美に渡す。

昌美 ありがとうね。

京子 どうやったの？面接。

透 うん、わからんけど、感触は良かった……気がする。

京子 そうか……ちよっと待ってて。

京子は602へ。

すぐに戻ってくる。

京子 ジャーン。

京子の手には高級ステーキ。

透 どうしたんそれ。

京子 あんたに食べさせようと思って。就職祝い。

透 早いわ。てかいいや、それ、いくらしたん？

あかんで。返しにいこ。別にステーキなんて俺、食べたくないし。

透はステーキを取ろうとする。  
京子はその手を振り払う。

京子 ええねん!! うちがあんたに食べさせたいねんから。  
準備するわ。

京子は602へ去る。

透 なんかうちのおかん、ありました?

昌美 ……どうして?

透 いや、ステーキなんて、初めてちゃうかな。

昌美 それぐらい嬉しいんよ。透くんがもうすぐ独り立ち  
できることが。

透 そういうもんすか。

昌美 最近、透君、絶好調やな。聞いたで義雄君から。

透 え。

昌美 彼女できたんやって。しかも義雄君から奪ったらし  
いやないの。でも人徳やなあ……義雄君、全然あんたに  
怒ってなかったわ。むしろ嬉しいって。どんだけあんた  
のこと好きやねん、あの子。

透 おばちゃん、違うんです。誤解せんといってください。  
俺、別に付き合ってるわけじゃないから。

透 ……

昌美 彼女なん?

透 ……

昌美 彼女なんやろ?

昌美は笑っている。

☆

透が、ベランダの手すりに肘をのせている。

右手には缶ビール。

後ろにはりさがいる。

りさ なんて来てくれんかったん?

透 ……

りさ 河原町のMOVIXに9時って約束したやん。

透 ……

りさ 忘れてたわけやないよね?

透 ……

りさ うち、A型やねん。待ち合わせってなると必ず10分  
前には約束の場所に行くのが癖やねんか。なんでか言う  
たら遅刻したら相手に悪いって思うから。なんで悪いっ

昌美 ええんよ。もう、うちの子に気を使わんでも。何度  
も言ってるやろ。あんたのせいじゃないって。

透 ……すみません。

昌美はベランダから遠くを見る。

昌美 見て……もうすっかりあの広場もこの団地に馴染

んだな……前はただの森やったのに。夏になったらよう  
あそこにカブトムシきたやろ? うちの別れた旦那もカブ  
トムシ好きでな、うちの子連れて遊びに行ったわ……

最近、カブトムシ、見た?

透 ……カブトムシですか?

昌美 あいつら、もうこの団地には戻ってこないわ。森を  
奪ったうちらのことを恨んでる。だってあそこで何があ  
ろうとカブトムシには関係ないねんもん。うちらがうち  
らの都合で勝手に切っただけやしな……もう二度とあんな  
ことがあってはいけませんってなあ。そんなんカブト  
ムシ知らんわなあ……そう思わへん?

りさが601からベランダに入ってくる(二人には見え  
ていない)。

て思うか言うたら、うち自身が待つ、大嫌いやから  
……でも残念ながら世の中の人全員がそういう考え方  
持つてるわけではないみたいやねん。だから考えてん。  
どうしたらみんな時間通りに来てくれるかって。まず約  
束の6時間前にメールするわ。「今日、何時にどこどこ  
ね」って。そしたらほとんどの人はメールの返信くれる。  
でも中にはメールの返事くれへん人もいる。そしたら電  
話すんねん。大抵の人は出てくれるけど仕事とかの都合  
で出れへん人もいる。でもそう言う人は出てくれなくて  
もあとでコールバックくれるわ。でもそんな中にも電話  
もくれへん人がいる。そう言う人には1時間おきに電話  
する。もうこうなったらさすがに出るよね。でもごく稀  
に出ない人がいんねん……そしたらめちゃくちゃ不安な  
る。なんかあったんちゃうかって。事故でもあったんちゃ  
うかって。一回、家、寄ってみようかなって。でもA型  
やねん。もし家におつたらどうする? うちなんて言った  
らいい? 電話に出ないから心配なるとかさ、めちゃく  
ちゃ心配な女やん、電話に出られへんことぐらいある  
やん。そう考えたらいけへんよ家なんて。だからうち  
は思うねん、これは思い過ぎし。きつと9時になったら約  
束の場所にきてくれるって……

透

……

りさ　なんとか言ってよ!!

透　……お前、俺との約束、もう忘れたんけ? 6時以降、絶対のうち来んな言うたやろ。

りさ　先に約束破ったのはあんたやんか。うちはほんまになんかあったんちゃうかって思ってたで! わかるやろ! あんたが来てたらうちは約束破らんかった。

透　俺のせいや言うんか。お前も俺のせいや言うんやな?

りさ　お前もって何?

透　んなことぐらい俺だつてわかってんねん。

りさ　何逆ギレしてんのよ。あんたのせいじゃなかったら誰のせいよ。

透　俺のせいや。俺が全部悪いねん。どうや、これで満足か。

りさ　ずるい!! 俺が全部悪いってめっちゃずるい!! そりゃああんたが全部悪いよ!! 悪いけど全部悪いってあんたが言ったら、もううち、なんも言えへんやん! 全部引き受けてるふりして何も引き受けてないってことやん!! そうじゃないやん!?

透　てか何で行かなあかんの? 俺とお前って付き合ってたっけ? 俺はそんなつもり一切ないぞ。

りさ　……何でそんなん言うん。

透　俺は別にお前のこと何とも思っていないし。

りさ　……

透　悪い。変な気、持たせたなら謝るし……送るわ。

りさ　いらん。

透　危ないから。

りさ　いらん!

りさは602へ去る。

すると602から建人の声がする。

建人の声　いらんってどういうことや……どいつもこいつも全然人のいうこと聞いてないのお?

りさの声　やめて!!

りさが602から飛び出し始める。

建人はペランダの手すりになりさを追い詰め、覆い被さる。

りさ　嫌!!

透　お前、何してんねん!!

建人　わけのわからんやつに犯されるんやったら俺がやったる言うてんねん!!

透　お前、ええ加減にせえよ!!

透はりさから建人を引き剥がす。

建人　お前、もうちょっと自分に素直になりいーさ。やったらええやん? 何でやらの?

透　黙れ。俺はお前とは違うねん!!

りさは困惑しながら602へ去る。

建人　あーあ。行ってしまった。そうやってお前はチャンスを逃していくんやなあ。

透　……

建人　東京の面接どうやった? 行けそうか。

透　……

建人　そうか。通りそうなんや。決まったらどこに住むんけ? 三鷹か? 吉祥寺か? 高田馬場か? 羨ましいのお。

小さなアパートから大きな会社へ通うわけやね。ほんで毎晩毎晩残業しながら腕、磨くわけやね? 挫けそうな時もあるわけや。辞めなくなる時もあるわけや。でもお前は絶対に辞めへん。なぜならお前には夢があるからな……映画監督……なれへんわ。普通はなれへん。でもどっかでなれるんちゃうかなって、お前は信じてる……いい

のお。若さっていいのお……それなのにどうしてお前は

そんな浮かない顔してるん? それはお前が義雄のこともお前さんのこともあの女のことも放っておけへんからや。

透　……

建人　どうする? おまえが東京行つたばかりにお前さんは

俺に殴り殺され、義雄は情緒不安定なって人刺して、トドメにあの女が俺に犯されたら。

透　……

建人　同情するわ。お前、色々抱え込みすぎ。もう知らんつてなつたらええのよ。俺はそうやって生きてきたぞ。

透　俺はあんたのようにはなりたくないよ。

建人　うん。わかるよその気持ち。とつてもわかるわ。俺もそうやったもん。嫌いやったわ。親父のこと。毎日毎日、

俺のこと殴ってきてな。いつか殺してやるって思ってたけどガンであつさり逝きよつた。

透　お前も病気で死んだらいい。

建人　それがそうもいかんねん。どういうわけか俺は生まれてこのかた、風邪ひとつ引いたことがない。だから俺を殺したかったら、お前が直接手を下すしかないわけよ。

透　頼む。もう帰ってこんといてくれ。

建人　嫌や。だつてお腹空くねんもん。お前、パチンコもカロリー消費すんねんぞ。集中力よ。脳みそフル回転よ。

なあ？ 今日の晩飯、何やと思う？ ハンバーグかな？  
エビフライかな？ 生姜焼きかな？ それともステーキか  
なあ？

建人は右手の人差し指を透のこめかみに当てる。

建人 でもおかしいなあ？ うちってこんなに食卓豪華やつ  
たっけ？ ほら、ほじくりかえせ。ガキの頃の記憶をよお  
……おら、おら。

そう言いながら、建人は何度も透のこめかみを突く。

建人 おかんはいつも何をしてた？ あいつ、ほんまに治  
らへんな。凄いいこと教えたろか？ お前をあいつがどう  
やって育ててきたと思う？ お前が小っちゃい小っちゃい  
頃から……なあ？

☆

微かな雨。

透がベランダの椅子に座っている。  
義雄が手を前に揃えて立っている。

後ろには背中を丸めて、バッグを抱えている京子。  
京子は椅子に座る。

透 ごめん、なんやつけ。

義雄 あ、はい。電話で話したとおりなんすけど、やつぱり  
り直接言ったほうがいいと思って。もう俺、報告書書いて  
帰ろうつてとこやったんすけど、バックヤード出たら  
おばちゃんがスパーに入ってきて。あ、透さんのおば  
ちゃんやと思つて。ほしたらカバンに商品入れ始めて  
……最初、えーって思つたんやけど、やつぱりおばちゃん  
やし、どう考えてもあれは、支払い済んでない商品やし。  
ほんで、しばらく見てたら、どんどんカバンにも  
入れていきまして。でも籠の代わりに鞆使つてレジで精  
算すのかなあつて思つたらそうじゃなくて。そのまま  
レジ通らんと出て行つて。慌てて声かけたら逃げてしま  
つて。で、こけて。で、商品が鞆から飛び出して、雨  
に濡れてもうて。もう店に戻つて商品、戻すわけにもい  
かんくて。で、俺、ちよつとどうしていいかわからんく  
てかなり迷つたんすけど、ちよつと電話して、こうやつ  
て連れて帰つてきたんすけど……

沈黙。

透 店長にはバレてへんの？

義雄 それは大丈夫です。

透 カメラは？

義雄 それはちよつとわかんないす。

透 ……

義雄 いや、俺も迷つたんすけど。

沈黙。

透 ありえへん。

沈黙。

義雄 きつと魔が差したんやと思います。

透 義雄。

義雄 はい。

透 お前、保安の仕事何日目？

義雄 一ヶ月です。

透 万引き犯の9割9分が常習いうんは研修で習わん  
かった？

義雄 ……

透 いくつバクつたん。

義雄 9個です。

透 初心者はいきなりそんなことせーへんのよ。

義雄 ……大丈夫つす。俺は誰にも言いません。それに一

切、何にも見てません!! いや、何かが見えたことすらあ  
りません!! 目が見えません!! うす!!

透 もういいよ。

透は立ち上がる。

義雄 あの透さん、あんまり怒らんといてあげてください。

反省してるみたいなんで。

透 義雄、ありがとうな。

透は義雄を602へ促す。

義雄は去る。

透 お母ちゃん。自分が何したかわかつてんの。

京子 わかつてるよ。

透 わかつてへんわ。バレてたらどうなる思てんの？

京子 バレへんかったらええやん。

透 バレへんかったら…… バレたからここにおるん

ちゃうんけ!!

京子はバッグを探り始める。

京子 今日は何の日か知ってる?

バッグから鰻のバッグを取り出す。

京子 土用の丑の日やねんで。

京子は鰻のバッグを開けると、クレープを食べるかのよ  
うに鰻にかぶりつく。

京子 あんた、鰻好きやろ?

透は鰻を取り上げて、ゴミ箱に叩き込む。

透 何してんのよ。

京子 ええやんか!!

透 ……

京子は鰻をゴミ箱から取り出す。

透 おい、それ食う気ちゃうやろな。

京子は602へ。

602から声。

京子の声 みーちゃんに餌、あげてくれた?

透 ……

京子がベランダに戻ってくる。

手には猫の餌が入った袋。

京子 あげてないやろ。分かんねん。減ってないもん。

透 ……

京子はテーブル下に置いてある、プレートに餌を入れる。

京子 朝まで雨やって……ニュースで言ってた。天気悪い

とスパーって客少ないな……やっぱり万引きも減る  
ん?

透 ……

京子 さっきエレベーター乗ったらな、中にスプレーで落

書きされてた。

透 ……

京子 あんた、ちゃうよね?

透 ……

京子 子供の頃、よく義雄くと悪さしたやん? そのおか  
げでお母ちゃん、どんだけ色んな人に謝ったと思う?

今でも思い出すのがあなたの小学校の頃の先生、名前な  
んやったっけ……えっと、山、山、山本? 山がつくの  
は確実やねん。

透 ……

京子 なあって。

透 山岡。

京子 そうそう、山岡。お母ちゃん、あかんわ。最近、  
色んなことか思い出せへんようになってきて……どう  
なってるの? あんた、わかる? そうそう、その山岡先

生の目な、うちのこと、見てないねん。見てるんやけど  
見てないねん。わかる、この感じ? 何がどうしたらあ  
んな目で人のこと、見えるんやろか。

透 ……

京子 もうしないようにするから。安心して。

透 ……

京子 みーちゃん。来ないかなあ……あ。

京子は空を見上げる。

京子 激しくなってきた……

建人が602から現れる。

ゆっくりと京子に近づいていく……

☆

次の日の夕方。

雨は降り続けている。

義雄が荒く呼吸しながら、ベランダをぐるぐると歩いて  
いる。  
ドラムバッグを持った昌美が602から現れる。

昌美 義雄くん。

義雄 ……

昌美 義雄くん。

昌美はバッグを部屋に置いてから、義雄の方へ。  
義雄の肩に手を置く。

昌美 大丈夫？  
義雄 ……  
昌美 座り。

義雄は昌美に促されるままに座る。

昌美 これ？透くんが持ってきて欲しい本って。  
義雄 はい。  
昌美 あんたも小説とか読むん？  
義雄 読みませんよ。  
昌美 ……今日、仕事は？  
義雄 休みっす。  
昌美 神田さんから電話あったよ。あんたが出勤してないって。  
義雄 ……  
昌美 あんた、休むんなら休むって言わへんと。それ、常識な？  
義雄 こんな時に仕事なんて行つてられないっすよ!!  
昌美 大丈夫やって。  
義雄 何が大丈夫なんすか!!おばちゃん、頭打ってるんすよ。

義雄 違うんす。俺のせいなんす。俺がおばちゃんに声さえかけへんかったら。  
昌美 ……私はあの人の着替え、今から持って行くし。あんたは仕事行きなさい。私から次長に言うとかし。  
義雄 もう今日は行きません。  
昌美 行きなさい。  
義雄 行かへん。  
昌美 ……

昌美はバッグを持つ。

昌美 あんたはええの？透くんが他所よそへ行くこと。  
義雄 いいに決まってるじゃないですか。  
昌美 そうなん？  
義雄 これはチャンスなんです。透さんにとって。  
昌美 ほんまにそう思ってる？  
義雄 はい？  
昌美 透くんなしであんた生きていけんの？  
義雄 ……  
昌美 (笑って)何、急に不安なってるんよ。あんたってほんまにアホやな。  
義雄 ……

昌美 あんた何か勘違いしてへん？年取ってくるとな。いろんなどこにガタくんよ。ちよつとしたことで意識飛んだりすんねん。

義雄 俺、そこまでアホじゃないです。  
昌美 ……ただの脳震盪やから。大事をとって一日入院するだけ。  
義雄 いいんすか昌美さんは。あいつのこと放っておいて。  
昌美 ええことないよ、うちだつて言うたんよ、警察に言おうって。でもそれだけはやめてくれって。  
義雄 野放しっすか。  
昌美 それはあんたには関係ないことよ。よその家庭の事情にあんまり頭突つ込むべきじゃないよ。  
義雄 関係大ありでしょ！おばちゃんの親友ちゃうんすか。じゃあ昌美さんはあの二人が殺されてもいいんすか？  
昌美 そうは言つてないやん。でもうちらに出来ることなんて何にもないやろ。  
義雄 俺にはあります。次帰ってきたら俺が言つてやります。もうこの家には帰つてくんなくて。  
昌美 あんたの言うことを聞くとは思えへんけど。  
義雄 あんな奴がおつたら透さん、東京行へん。それだけは絶対にさせへん。  
昌美 ……

昌美 うちはな。実はちよつと嬉しいねん。

昌美は602へ去る。

☆

その日の夜。  
義雄が椅子に座っている。  
602から透が入ってくる。  
義雄は立ち上がる。

義雄 お帰りなさい!!  
透 ……お前、ずっとここにおつたん。  
義雄 はい!!もしあいつが帰ってきたらぶちかましたろうって思つて。  
透 仕事は？おばちゃん言うてたぞ、またサボってるって。  
義雄 俺、決めたんす。あいつにもう二度とここ帰つてくんなつて言うまで、この場所、離れません。  
透 余計なことすんな。  
義雄 余計じゃないです。おばちゃんと透さんのためです。ほんとはショットガン持ちたくて。俺、透さんの勧めで

くれた映画、全部観てて。それでタイトルなんやっただかな？ ちょっと忘れたんですけどアメリカの田舎であるじゃないですか、ほら玄関の……あれなんつーすか？ なんか椅子があつて、ビールとか飲んで、そこから通りを眺めたりして!!

透 ポーチっていうんよ。

義雄 そう!! ポーチ!! そうや!! ポーチっていうんや!!

そこで座って!! 脇にショットガン抱えて!! かっこいいじゃないですか!!

透 ……確かにカッコいいな。

義雄 そうでしょ?

透 でも日本にショットガンはないな。

義雄 だから俺そのものがショットガンすわ!! ぶちかましますわ!!

透 ありがとうございます、義雄。

義雄 ……はい!!

透 でもいいねん。そんなことせんで。お母ちゃんは俺が守るから。

義雄 俺も手伝いますよ!! それに透さんは今、超大切な

時期やし。

透 あ、そのことやけど電話あつた、東京の会社から。

義雄 え!?

へん。自分の身は自分で守る。出迎えなんていらん。ナメントいて。

透 ……俺、コンビニ行くし、その間にお前、こいつ駅まで送れ。ええか? わかつたな? それからお前、二度と俺みたいになりたいとか言うな。俺の心配なんかすんな、お前の心配しろ。目の前にあることからちゃんとやれ。

義雄 ……

透は602へ去る。

りさ 手出して。

義雄 あ?!

りさ いいからいいから。

義雄は右手を差し出す。  
するとりさは義雄の右手を掴み、あつという間に床に振じ伏せてしまう。

義雄 痛い痛い痛い!!

りさは手を離し、ガッツポーズする。

透 是非、きてほしいって。

義雄 ……東京!! 狂った街い!!

透 でも断つた。

義雄 ……なんで。

義雄は半泣きになる。

義雄 また違う会社受けるんすよね?

透 受けへん。

義雄 受けてくださいよ……受けてくださいよ!! そんな俺、全然嬉しくないですよ!! あんたの夢は俺の夢やねんから!!

601からりさが入ってくる。

義雄 俺が呼んだんです。透さん落ち込んでるからきてくれって。

透 お前、ええ加減にせえよ。

りさはバッグから催涙スプレーを取り出し、透に向ける。

りさ うち自分の来たい時にくる。あんたの指図は受け

りさ よし!! よし!!

義雄 ……何すんのよ!!

りさ 空手。習い始めてん。だから試してみた。

義雄 実験台!?

りさ うん、義雄ならええかかって思つて。

義雄 ……

りさ わざわざ来たのにコンビニって。

義雄 ……

りさ ほんまはな、怖かつたんよ、ここくるの。

義雄 そりゃあそうやろ。ここ、めちゃくちゃ治安悪いから。いくらお前が空手家いうてもな、そんなんやばい奴には通用せーへんぞ。

りさ ううん。そうじゃなくて……透くんに会うのが。

義雄 会うのが怖いつて何が?

りさ なあ。あんた、あの人と長い付き合いなんやろ。

義雄 そうや、ずっと一緒。透さんがおらんかつたら今の俺はおらんの。

りさ なんかあつたんあの人? なんかっていうのは……

その、昔の彼女とか。

義雄 ……何もない。

りさ 教えて欲しいんやけど。

義雄 無理。  
りさ お願い。

沈黙。

義雄 ……さっきの透さん、あん時と同じ顔してた……

ほらあその公園。今はあんなやけど昔は森になってて  
……でもな、透さんは悪くないねん。たまたまデートし  
てた時に喧嘩なって、それで相手が先に帰ってしまつて  
……それから透さん、刃物持って団地、徘徊するように  
なった。絶対に俺が殺してやるって……でもなかなか犯  
人捕まらへんくて……そしたら透さん、変なこと言い出  
すようになって……犯人はもしかしたら俺自身かもしれ  
へんって……でもそんなことはありえへん。だって二人  
が喧嘩した夜、その後、俺、透さんに呼ばれて遊んでた  
んやから。それに付き合うつて好き同士でするんやろ？  
何でわざわざそんなひどいことするん？そんなわけな  
いって俺は透さんに言うんやけど透さんは俺の中には黒  
い血が流れてて、それはもう自分ではどうしようもなく  
ととか、俺は生まれて来た時点で終わってんねんとか、  
俺で終わりにさせなあかんとか全然わかからんくて……

手すりから下を見ている透。

呼吸が荒い。

透は後ろを振り向く。

そこには死んだはずの建人がいる。

建人 お前は黒いらくだなんよ……ずっと昔からこの世界

にいる黒いらくだやねん。いい加減、それ、認めへんと

……

☆

時間が、透とりさが初めて会った日に、巻き戻る。

りさ あの……ありがとう。

といい終わらないうちに透は、りさの髪を掴む。

透 今何時？真昼間から学校も行かんと何してんねん。

りさ ……

透 女がレイプされたらどうなるかわかつてんのか？

おい。お前、これからそれ引きずっていく勇氣あるんけ？

☆

激しい雨。

ペランダで建人が寝そべっている。

空になった大量の缶ビールが床に転がっている。

透が建人を見ている。

沈黙。

透は建人を抱きかかえる。

建人 やつとその気になったか。

透 ……

建人

なかなかいいアイデアやな。アル中が転落死って確  
かにありそう。『青い炎』の文庫、処分しとき。あれも親父、  
殺す話やろ？

透は手すりに建人の背中をのせる。

暗闇。

人が落ちる音。

☆

ああ？

りさ ……すいません。

透 すいませんちゃうわ!! 勇氣があんのかないのか聞  
いてんねん!!

☆

透が約束をすっぱかした、あの日。

透 俺は別にお前のこと何とも思っていないし。

りさ ……

透 悪い。変な気、持たせたなら謝るし……送るわ。

りさ 危ないから。

りさ いらん!

透 ……いらんってどう言うことや……どいつもこいつ

も全然人のいうこと聞いてないのお？

りさ やめて!!

☆

京子の万引きを、透が知ってしまった、あの日。

京子 でももうしないようにするから。安心して。

透 ……

京子 みーちゃん。来ないかなあ……あ。

京子は空を見上げる。

透が京子の身体を掴み、頬を叩く。

京子 ごめんな。こんなことになって。

京子は透の胸で何度も謝る。

透は京子を突き飛ばす。

京子は頭をぶつけ、意識を失う。

☆

建人 お前はいつも探してる……どこに行っても探してる

……昔の女を犯して殺した男を……でもいつだってそ  
いつの顔はお前自身やねん。

透 違う俺じゃない。

建人 お前のせいやろ？お前があいつを一人にしたんや。

透 俺のせいや。俺のせいであいつは、お母ちゃんは。

建人 違う。お前のせいじゃないよ。

透 そうや。俺のせいじゃない。

建人 いつまでそうやって逃げるんや!!俺からは逃げられ  
へんぞ!!さあどうすんねん!!これは俺の問題じゃない。

お前の問題や。

透は手すりの方へ。

りさが601から入ってくる。

透は下を覗く。

りさは透に近付こうとする。

透 こっちくんな!!

りさは気圧されて、立ち止まる。

建人 それがお前の答えなんか？

透 お前、言ってたやろ？自分は母親にそっくりって。

俺も同じやねん……ずっとずっと怯えてた。俺はいつか  
親父みたいになるんちゃうかって。この前初めてお母  
ちゃんを殴った。無意識やった。もう俺は自分が信じら  
れへん……

りさは再び近づき、透に触れる。

透 触んな!!殺すぞ!!犯すぞ!!

透はりさに掴みかかる。

りさ ……やってみいさ。

透 ……

りさ うち違う。

透はりさの胸で崩れ落ちる。

☆

一ヶ月後。

セミの鳴き声。

喪服姿の昌美と義雄。

昌美の手には表彰状。

昌美 表彰状。武田義雄殿。あなたは平成29年度7月度

向島地区での保安業務において優秀な成績を収めたので  
ここに賞します。平成29年8月31日。平和警備株式会社

代表取締役増岡修輔。

義雄は賞状を受け取る。

義雄 おおー!!

義雄は踊り出す。

昌美は笑っている。

義雄 まじすかー。いいんすかー。まじすかー。

昌美 おめでとう。

義雄 俺、賞状もらったのなんて人生で初めてです。

昌美 まさかあんたが一番取るなんてな。

義雄 マジで頑張りましたもん。一切パチンコ行きません  
でしたから。

昌美 急にどうしたん？コツでも掴んだん？

義雄 コツはそうっすね。パチンコに行かへんことですね。

昌美 あんたに負けた自分が信じられへんわ。

義雄 あとちょっと楽しくなってきました、この仕事。

この前、伊勢丹の支配人がたまたまおつて。めっちゃ俺  
のこと褒めてくれて。また来てくれて。俺、あんなに  
褒められたん初めてで。

昌美 ええな。あんた、いいことばかりやな。透くんも東京行かへんねんやろ？

義雄の携帯電話が鳴る。

義雄 もしもし。みーたん？ あい。よしちゃんどす。どうしたん？ え？ 何もないの？ 実は俺も電話しようと思ってたとこねん。

義雄は昌美を見る。

義雄 はじめてのお、かのじよおですう。先、集会所、行ってますんで。

義雄は、サンダルを整えてから、601へ去る。

昌美は、煙草を取り出し火をつける。

しばらくすると602から喪服姿の京子が手持ちバッグを持って、入ってくる。

京子 ごめんな、わざわざ来てもらって。

昌美 ええんよ。どう身体の調子は？

京子 まだ胸が痛くて。ヒビって自然治癒以外方法がない

らしいわ。もう笑うだけで痛い。

昌美 じゃああえて笑わせたるわ。

京子 やめて。あいたたた。

昌美 似合ってるやん喪服。

京子 それ、褒めてんの？

昌美 男って喪服に興奮するらしいわ。ほんまアホやんな。京子 よかったわ、まだ着れて。もうお金、すっからかんよ。

あの人、死んでまでうちに迷惑かけるんやから……

昌美 警察はなんて？

京子 急性アルコール中毒やって。まさか仙台で暮らしてたなんて思わんかったけど。せや、新幹線代実費よ？

「お金ないから無理です」って言うても顔確認してもらいたいって。やし言うたってん、「写真でいいです送ってください」って。でも結局送ってこず。ほんで行くだけ行って顔、確認したら今度は遺体をこっち送るのにもお金かかるって言うんよ。ほんまに仙台警察あかんわ。

昌美 暮らしてたって？

京子 え？

昌美 こっち帰ってきてたんやろ？

京子は曖昧に笑う。

昌美 ……この前はごめんな、うちのせいやわ。まさか義

雄くんが入ってるなんて思ってた。メールのミスやねん。次は絶対ないようにするし。葬儀が一段落したらまたやる？

京子 大丈夫。気にしないから。むしろよかったって思ってる……ありがとう。わざと間違ってくれて。

昌美 ……

京子はバッグから封筒を出す。

京子 はい、これ。

昌美は封筒を受け取る。

京子 今までもらったお金。

昌美 なんで？

京子 もういらへん。

昌美 必要やろ？

京子 いらん。

昌美 そりゃあ東京行きはなくなったかもやけど。

京子 行くよ、あの子。東京に。

昌美 え。

りさが601から入ってくる。

京子 こんにちは。

りさ こんにちは。

京子 わざわざありがとうな。

りさ いえ。

京子 あ。あんた、初めてやっけ？

りさ (昌美を見る)。

京子 筒井昌美さん。前までそこで暮らしててん。

りさ 初めまして。熊谷りさです。

昌美はりさを見つめている。

昌美 ……私は絶対に許さへん。

昌美は601へ去る。

りさ 私、何かしましたか？

京子 (首を振って) あんた、集会所の場所、わかる？

りさ はい。看板出てたんで。

京子 先、行つといて。すぐに透と行くから。

りさ わかりました。

京子 それからな。よかつたら、あの人(昌美)の話、聞いてあげて。

りさ ……はい。

りさは戸惑いながら601へ去る。

京子 嗚呼……暑いなあ……

602から透が入ってくる。

透 準備できた？

京子 ネクタイ曲がつてんで。

京子は透のネクタイを直す。

透 ……お母ちゃん。俺も親父みたいになるんかな。

京子 ……あんたがお父ちゃんから引き継いだのは、それだけじゃないやろ？

京子は透にもたれかかる。

☆

若き日の、建人が現れる。

建人 おい、準備できたか？

透 うん。

建人 よし、行こう。

建人は幼い透の手をとる。

電車。

建人 ……将来の夢は？

透は何か言おうとして……

おわり

映画館。

透 父ちゃん。今日はなんの映画？

建人 らくだ。

透 らくだって何？

建人 動物。らくだの親子の話。

建人 大人一枚。子供一枚。透、ポップコーン、食うけ？  
透 うん。

建人と透が椅子に座ると、館内が暗くなる。

スクリーンの光が二人を照らす。

二つの影は大きなコブと小さなコブとなり、砂漠の向こうに消えていく……

透 お父ちゃんは何で映画が好きなん？

建人 俺のお父ちゃんが好きやったから。

透 ほんなら俺も映画好きやな。

建人は透の肩に手を回す。

ももちの世界リーディング公演『黒いらくだ』

作・演出 ピンク地底人3号

■上演日程

2021年12月12日 全2ステージ

■会場

こまばアゴラ劇場

東京都目黒区駒場1丁目11-13

■出演

青柳糸

岡本理沙

兼本得義

喜多村千尋（劇団東京ヴォードヴィルショー）

河野こころ（演劇ユニット『あやとり』）

鴫田直也

真白ねづみ

山本祐也（りゃんめんにゅーろん）

■ staff

舞台監督 玉井秀和（劇団 FAX）

照明 大津裕美子

音響 宮崎裕之（predawn）

宣伝美術 chanmi

写真・映像撮影 北川啓太

衣装 うさ組

制作 秋津ねを（ねをばあく）・北川啓太

企画・製作 ももちの世界

## 上演記録

ももちの世界 #2『黒いらくだ』

作・演出：ピンク地底人3号

■上演日程

2017年7月20日～23日 全6ステージ

■会場

in → dependent theatre 1st

大阪府大阪市浪速区日本橋5丁目12-4

■出演

秋津ねを（ねをばあく）

織田拓己（カラ／フル）

神藤恭平（DanieLonely）

高橋映美子

竹内宏樹（空間 悠々劇的）

原 由恵

■ staff

舞台監督 今井康平（CQ）

照明 吉田一弥（GEKKEN staffroom）

音響 森永キョロ（GEKKEN staffroom）

舞台美術 久太郎（Anahaim Factory）

宣伝美術 chanmi

制作 若旦那家康（コトリ会議／ROPEMAN(39)）

クレジット・会場住所等は上演当時のものです

### 著者略歴

2009年3月 同志社大学文学部文化学科美学芸術学専攻卒業。2006年より「ピンク地底人」の活動を開始。以降、すべての作・演出を担当。並行して2015年より「ももちの世界」を結成。

### 代表作

2010年『その指で』（第11回AAF戯曲賞最終候補）

2018年『わたしのヒーロー』

（第6回せんだい短編戯曲賞大賞単独受賞）

2019年『鎖骨に天使が眠っている』

（第24回劇作家協会新人戯曲賞受賞）

2020年『カンザキ』（第27回OMS戯曲賞佳作受賞）

# 黒いらくだ

2021年12月5日 初版発行

著者                    ピンク地底人3号

発行元                ももちの世界

装丁・編集            chanmi

連絡先                <https://momochinosekai.tumblr.com/>  
[pinkchiteijin3@gmail.com](mailto:pinkchiteijin3@gmail.com)

本作品に関するご意見、ご感想、上演許可申請などは  
上記連絡先まで

本書を無断で上演、販売、複製、転載、データ配信等  
することを固く禁じます